



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2012年11月1日

11月号・第130号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲

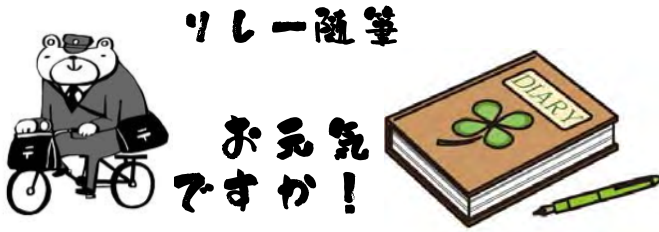


§ § § § §

Contents

§ § § § §

リレー随筆・お元気ですか！……………	①	鳥シリーズ & 地域情報……………	⑪
ドールコーヒー農場にて……………	②	美味旬感・奈良学クイズ……………	⑫
イベントレポ1……………	③	自然俳句……………	⑬
イベントレポ2……………	④	Galleryならやま & 12月例会案内……………	⑭
イベントレポ3……………	⑤	癒しの散歩道 & ならやま茶論……………	⑮
イベントレポ4……………	⑥	青垣春秋……………	⑯
Monthly Repo.ならやま……………	⑦	ならやま景観整備 & 情報BOX……………	⑰
里山の今・自然観察レポ……………	⑧⑨	行事案内(自然教室・11月例会)……………	⑱
やさしい昆虫講座⑮……………	⑩	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記……………	⑲



やっと入会しました！

川口 達夫

私と「奈良・人と自然の会」との出会いは結構古く平成15年、「いこま棚田クラブ」の立ち上げのうちに、川井さん、阿部さんその後古川さん他たくさんの方々に出会ったのが始まりでした。

大阪南区（今の中央区）で生まれ育った私はあまり自然とは縁がなかったこともあって、リタイアも近い時期に「自然」の名にひかれ「シニア自然大学」（星8期）に入り、今までと違った世界を知ることになりました。

講座修了後は後継者不足もあって荒廃が進む生駒の棚田の景観の復活と保全を目的に始めた「いこま棚田クラブ」を中心に活動し、いつの時代に造られたのか雑草や土砂に埋もれていた美しい石垣が姿を現す度に今までにない喜びと達成感を味わったものです。「ならやま」の活動でも同じ思いの方が多いのではないのでしょうか。忍辱山の整備活動にも何度か参加させていただきました。お陰で立派な？草刈り戦士になりましたが、ボランティア活動の難しさも知りました。70歳を機に「棚田」もほぼ卒業させてもらい、今は「つちのこ探検隊」や現住所で始めた「なわて自然観察会」など、気楽な活動に参加して日々楽しんでいます。

この度、遅ればせながら入会させていただくこととなり、新たにいろんな方々に出会える機会が増えることをわくわくした気分で楽しみにしています。今回、「なにか書け」との御依頼もあって入会のご挨拶と自己紹介を兼ねて寄稿させていただきました。

今後ともよろしくお願いたします。



おばちゃん頑張ってます！ 川口ゆみ子

小学校の観察会の話聞いてください。

奈良県と大阪府下の小学校観察会に参加して2年目になります。授業の一環なので、観察会には担任の先生も参加していただきます。

今日(10月17日)は、狭山市の小学校観察会下見でした。対象は、1年生40人、2年生37人の児童にスタッフが12人。各学年は2クラスあるので、1クラスを3班編成にして、スタッフ1人が児童6人強を担当します。1人のスタッフが担当できるのは10人までですね。児童が10人こえると、目が行き届かず、ポイントをこなすのがやっとなです。でも、小学校の先生は、毎日30数人の児童との生活だから、30数人の児童の声を聞く。考えただけでも大変です。教師の仕事量が多すぎますね。

観察会は、小学校の裏山が会場です。以前は、この裏山へは校庭から行けたそうですが、今は宅地化が進み、校庭の後には家がギッシリと建ち、校門から20分かかって裏山の入口です。裏山にはドングリの木が多く、モミジは1本。松の木は枯れています。雨あがりでしたから、カタツムリがアチコチで冬眠前のひとときを楽しんでいました。

でも、草がありません。散歩の人の邪魔になるのか、草は生えていません。自然がいつぱいという環境に見えますが、休憩所には、公園の花壇の雰囲気があり、花壇に入ると管理人から、去年は注意がとんだそうです。

「きれいに咲いているからさわらない」また、「危ないからダメ」「きたないから触らない」「アレルギーだから…」「よごれる」保護者の声が聞こえてきそうですが、生き物ひとつひとつに命があり、どんな草花も拡大鏡で見ると、そこは素晴らしい命の営みの世界。どんな絵画にも負けない世界があります。それを子供たちに見てもらいたい。「小さな葉っぱにも命の営みがあるから折るのはダメね」と子供どうして話してほしい。そしたら、「いじめ」が無くなるのでは？地域や学校にとって観察会は必要なものではないでしょうか？

ドトールコーヒー農場にて



坂東 久平

9月中旬にハワイ9日間の旅行をしました。最初の2泊3日はハワイ島のコナで、残りはマウイ島・ワイキキで娘夫婦と合流し、久しぶりの家庭サービスが出来たと喜んでます。

昨年6月の心筋梗塞で、1年間の山登りや飛行機利用を禁止されておりましたので、久しぶりの旅行でした。

ハワイ島では、1日掛けて島1周の「パワースポットアドベンチャー」をしました。2日目はのんびりと有名なドトールコーヒーの農園の観光をしましたので、ご紹介します。

コナの中腹に広がるコーヒー園ですが、熱帯の植物園みたいで、コーヒー以外に花や果物の樹が沢山あり、とても綺麗なところでした。

中央付近に「マウカメドゥズオーシャン」とよばれる池があり、畔の休憩所でコーヒーを飲ませてくれます。



まるで南洋の島にいるみたいです。

池の所にカーディナルが番で現れました。カーディナルには色々な種類があり、真っ赤な「NORTHERN CARDINAL/和名：シヨウジョウコウカンチョウ」は、大リーグのカーディナルス命名の由来です。

現れた鳥はハワイで最もポピュラーな「YELLOW-BILLED CARDINAL/和名：キバシコウカンチョウ」でした。



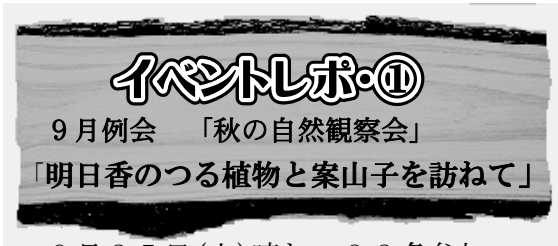
暫く水浴びなどして遊んでいました。

丁度コーヒーの実る次期で、赤い実が沢山付いて綺麗です。



ところで、ドトールはポルトガル語で、「医者・博士」の事で、「創業者の鳥羽さんが、ブラジルのコーヒー農園で働いていた時の下宿先が、サンパウロの『ドトール・ピント・フェライス通り85番地 (Rua Doutor Pinto Ferraz, 85 フア・ドウトール・ピントウ・フェハス)』であったことに由来する」そうです。

コンピュータや電話、新聞などから隔離された9日間ですっかりリフレッシュ出来ました。



9月25日(火)晴れ 22名参加
(担当 自然観察チーム)

～つる植物に満腹！！～

本当に秋晴れの(少し暑かったけど)観察にはもってこいの日でした。

私はつる植物ってそんなに多くの種類があるの？こんな気持ちで参加しました。でも、資料には名前がいっぱい並んでいるではありませんか。それも私の聞いたこともない名前がずらーり・・・これから、頭の中をお勉強モードに切り替えなければなりません。

さっそくルコウソウの真っ赤な花を見つけました。最近あまり見かけなくなりました。それに代わって、道端などでマルバルコウソウが繁茂しています。下見の時より畔の草が刈られているのが多かったです。まさしく雑草なのですね。

途中アオギリの種のおもしろいつき方を見ました。「昔はおやつとして食べていた。」「現在でも煎ってコーヒーのように飲んでいる」と聞きました。

スズメウリの小さなかわいい実がついていました。カラスウリに対して小さいからスズメという名前になったのかと思っていましたら、鈴女瓜という説もあると聞いて、実のかわいさからなるほどなあと思いました。それから、ガガイモの観察です。花には白い毛がいっぱい！そして小さいニガウリのとがったような実があちこちになっています。

私はガガイモの実を初めて見ました。袋の中には実と長い絹糸のような毛がびっしり。熟すと袋が割れて、種をつけた毛がふわふわと飛び出すのだそうです。

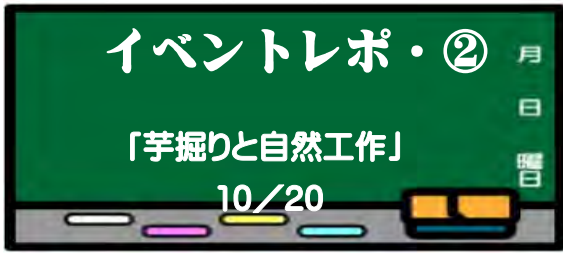


昼食後、暑い道を歩き、やっと朝風峠を越え見渡す限りヒガンバナです。人がいっぱいです。今年は例年より開花が遅かったようですが、案山子ロードの畔には真っ赤なヒガンバナが咲いて、田んぼの黄金色とで日本の風景だなあと、うれしくなりました。いいお天気で、たくさんの案山子達に出会い、つる植物もこんなにあるのだと1日頭を活性化させて楽しい時間を過ごせました。

(勝田 緑)

かわいい案山子が
いっぱい案山子ロードに
飾られていました





佐保台小学校児童たち(児童24名+幼児3名)と保護者(24名)、菅原校長先生と伊納さん他4名、そして会員家族の方々(子供11名+保護者4名)を対象に「芋掘りと自然工作」を実施した。参加スタッフは27名で、総計97名にも及ぶ一大イベントとなった。

受付にて子供達を7班(赤・青・黄・緑・銀・若草・茶)にカラーテープで班分けをした。阿部顧問の開会の挨拶に続いて、塩本さんから里山の概要と注意事項の説明をもらった。

続いて各班別に分かれて、芋のツルの長さコンテストに始まり、芋の重さ、そして芋の形の面白さにチャレンジしてもらった。まず芋の長さは根っこから葉っぱの先で最高3.8mでしたが、疑問点もありました。重さについては、最高1267gで立派な芋が収穫できました。また形の面白さについて、各班からこれぞというユニークなものを出し合いました。銀組の形(写真)が最高でした。芋掘りコンテストでは、各班のまとまりもあり良かったと思います。



	1	2	3	4	5	6	7	8
つるの長さ	銀	赤	緑	茶	青	黄	若草	
	3.8m	3.25m	3m	2.5m	2.4m		2.3m	
いもの重さ	若草	緑	銀	赤	青	茶	黄	
重さ	1259g	1267g	1190g	1114g	1094g	1068g	890g	
いもの形	銀	緑	黄	茶	若草	青	赤	
順位								

昼食では、会員のスタッフが作った新鮮そのもののサツマ汁をお代りをする子も多くいました。サツマ汁の本当の美味しさを皆さんに味わって貰うことができました。

午後からは、自然工作で竹ぼっくり作りに各



班に分かれて取り組み(新しくのこぎりを使う)子供達が一生懸命取り組みました。早速、手作

りの竹ぼっくりに乗り、自転車道で歩いて楽しんでいました。



また、広場で竹馬のりなどもやっていました。14時頃からは、おやつの時間として焼き芋を賞味、美味しさのあまりみるみるうちに完食しました。

森副会長と伊納コーディネータからの講評と挨拶で締めくくり、皆さんにお土産として今日収穫したサツマイモを持ち帰ってもらい、天候に恵まれ楽しい1日であったと思います。

(文責 富井)

イベントレポート③

鳥見小学校 放課後子ども教室
「自然教室チーム」

鳥見小学校で放課後子ども教室の一環として、10月17日（水）校庭の自然観察会を実施しました。朝から雨模様の天気、午後1時過ぎには激しく降りだし、開始直前になって雨は上がったものの、何時また降り出すかわからず、運動場もぬかるんでいたため放課後教室や音楽教室など、4教室を使用した室内活動に切り替えました。

子どもの参加は1～5年生の31名。自然教室チームのスタッフは6名で、5つの班に分かれて植物観察と自然工作を行い、子どもたちは勿論のこと、スタッフもお喋りや工作を楽しみました。

野外でできなかったのが少し心残りでしたが、室内に変更してもトラブルはなく、学習と遊びをミックスした方式が成功に繋がったものと思われま。



「カタバミ」のポイントでは、カタバミの寝姿、種飛ばしなどの話の後、10円玉をカタバミの葉で一生懸命磨いてピカピカにしてご機嫌でした。

「ヌスビトハギ」のポイントでは、秋の嫌われ者の引っ付き虫を取り上げ、オオオナモミ、ヒナタイノコズチ、アレチヌスビトハギ、アメリカセンダングサの種を虫めがねで観察し

引っ付き虫の仕組みを学んでもらいました。オナモミダーツではなんとか的の中心にあてようと何度も挑戦していました。



「ドングリ」のポイントでは、何処から根や芽がでるのかというクイズで始まり、最後にはシイの実の試食もしました。みんな

初めての経験で「まずい」と言う子もいましたが、ほとんどの子から「美味しい」と言ってもらえ、朝から炒って準備した担当のスタッフも苦勞が報われたようです。

「クロガネモチ」のポイントでは、紫色の枝、赤い実を観察した後、魔法の鉛筆による葉裏への字書きに挑戦。1枚で足りず、2枚、3枚と文字や絵を描いていました。

「クス」のポイントでは、植物もいろいろ匂いを出すことを学んでもらい、クスノキ、ミカン、シソの匂い比べをしました。匂いの良い悪いは評価がわかれましたが、部屋に入るなり、シソの匂いがするという敏感な子もいました。

「自然工作」ではドングリの帽子(殻斗)を使ったブローチ作りをしました。帽子にティッシュペーパーを詰めたり、目玉を貼り付けたり細かい作業でしたが、可愛いいくまさんが出来上がり喜んでもらえました。



放課後教室では、子ども達は授業からの開放感から、少しだらけ気味になりがちですが、今回は集中して、私たちの話もよく聞いてくれました。また、質問の時間では、取り上げた植物について、要点をついた鋭い質問がポンポン飛び出したのは驚きでした。話をちゃんと聞いてくれたようです。（木村 裕 記）



昼の部『東大寺の隠れ古社寺を訪ねる』

(19名参加)

神社の名前	ご祭神・ご利益など
巖島(いつくしま)神社	鏡池の弁天さん芸事上達
五百立(いほだて)神社	大仏建立労務災害殉難者
子安(こやす)神社	良弁の母、安産子孫繁栄
辛国(からくに)神社	天狗の妨害封じ
興成(こうじょう)神社	若狭井の鶴、豊玉媛命
飯道(いみち)神社	カグヅチ、家内安全
遠敷(おにゅう)神社	遠敷明神、山幸彦

東大寺の境内にある多くの神社の内、今回は7社を訪ねた。いずれも小さな神社でお参りする人も少なかったが、どの神社も美しく、清々しい雰囲気であった。それぞれの神社毎に由緒があり、ご祭神やご利益を教わり、参加者各自、家内安全や子孫繁栄など祈念しお参りした。

夜の部『奈良豆比古神社の翁舞』

(26名参加)

資料館にて奈良阪町の村田昌三氏の話聞いた。館内には奈良阪町の古地図、翁舞のお面、大和名所図会、おびたしい数の古文書の類、元明元正天皇の陵墓の地図と口上書などが展示されていて、それぞれ説明してもらった。特に大和名所図会に描かれた江戸時代の奈良豆比古神社が印象に残った。当時は善城寺という寺で本殿も、鳥居も描かれ、仏像もあったそうだ。また万葉集に歌われている「平城山の児乃手柏」も、元明天皇の陵墓から転がり落ちた函石も描かれている。歴史ある町を守る御苦労を思った。

すっかり日が暮れ拝殿の傍に各自陣取り、翁舞の始まりを待った。20年毎に行われる造替の62回目が今年行われ、ちょうど1週間前に御遷宮なったばかりで、本殿は黒と朱の艶々した色のコントラストが美しい。また拝殿の軒の板も真新しく、樋の赤胴色もきれい。釣り灯籠、祭り提灯に火が灯り、やがて篝火が焚かれた。

奈良豆比古神社の翁舞は国の重要無形民俗文化財に指定され、昔浄人王が父春日王の病氣平癒を祈って舞った猿楽が始まりで、能の源流とされて

いる。翁講・翁舞保存会により毎年奉納される。まず演者、囃子方は1人ずつ本殿に向かい御辞儀し拝殿に座った。千歳は男の子が演じた。何やら謡いながらゆったりと舞う。伴奏は笛と鼓、単調なリズムとメロディー、「よおう、ほお、はっ」というお囃子。千歳は露払いの役で次に登場する翁のために拝殿内を歩き回り清める。次に翁は美しい衣装にお面を付け明るい声で「天下泰平、国土安穩」と唱えながら舞う。この翁は平城津彦神かなと思った。続いて2人の翁が加わって3人の舞が始まり、「万歳楽」の連呼、声が揃っていっそう華やか。施基親王と春日王か、3柱の神が揃い有難味が高まる。翁退場のあとは三番叟、これは質素な衣装で荷物担いだり、田畑の仕事の表現、コミカルな動作もあり農耕民だと思った。ここに先ほどの千歳が登場し三番叟と問答をした。「…候」しか聞き取れず内容がわからなかったが、2人は決して対面することはない。農耕民と神の使いの



千歳とは対面することはできないのだろう。三番叟はここで神からの鈴を千歳から受け取る。顔には黒いお面を付けて、その鈴を振り鳴らしながら大喜びで激しく舞う。床を踏み鳴らし、ジャンプし、五穀豊穡を祝い神事は絶好調になり、終わった。

なんと素朴で心のこもった、古代人の願いが伝わってくる神事なのだろう。場内は不思議な感動に包まれた。神の存在を信じない人も多い現代人も、人間の力ではどうしようもない大自然の存在を感じる。自然の恵みに感謝し、また自然の猛威を恐れるのは古代人と同じ。そんなことを思いながら帰途についた。貴重な体験をありがとうございました。(参考文献：武藤康弘著「映像でみる奈良まつり」)(文責 守口)

Monthly Rep.ならやま

◆9/20 (木) 曇り、快適 43名+6名

第5地区近くの自転車道で枯死して倒れかけている松の大木の処分、第5地区では進入路を中心として樹木の整理と笹刈り続ける。

花壇ではヒガンバナが咲き出し、コスモスも満開でピンクの花を泳がせている。

ならやまベースキャンプへの道案内看板を設置した。

近畿大学の北川先生がバラタナゴの状況視察に来られた。



◆9/27 (木) 快晴 45名+2名

第5地区では、進入路が中央の通路まで貫通した。樹木の伐採や笹刈り作業では丈夫なクズの蔓、ノイバラの棘に悩まされる。

樹幹から虫糞の噴出していた樹の1本で先枯れ症状が発生した。加害虫が見つからず、種の同定ができていない。

水田脇の水路を整備したのでタナゴ池への水の流れも改善された。

佐保台小学校5年生の水稲観察。草丈や茎数などを調べ、池の生物観察も行った。

県庁自然環境課から「景観サポート」の実習に向けての打ち合わせに係員2名来られた。

◆10/4 (木) 雨降ったり止んだり

40名+11名

20日の芋ほりイベントに向けて、竹工作用と刈り取った稲の干し場用の竹を準備した。

会員によるサツマイモの初収穫が行われ、

お昼にはサツマイモなど、ならやまの産物がいっぱい入ったブタ汁を賞味した(味噌汁サービスの開始)。

タナゴ池ではドブガイの増殖を図るため、ヨシノボリを放流(近畿大学が準備)。

県の森林技術センターから3名の研究者が訪れ、皆伐予定地の樹木調査を完了されたので、今後伐採を進める予定である。

当会による管理地が増えたので、点検管理や生き物調査のための巡回パトロールを実施することになり、メンバーの募集を開始。

雨のため、午後の活動は中止。



◆10/11 (木) 曇ったり晴れたり 43名

午前中、全員で佐保自然の森の草刈りを実施。草で覆われていた通路も顔を出し、カンナなどの花壇もきれいに除草され、囲いも設置された。県からチップパー機を借り出し、第5地区の刈り取った笹の粉碎を開始。

菜の花の播種が行われた。来年の春には黄色の花の絨毯が見られるだろう。

◆10/18 (木) 雨 活動中止

昨日からの雨が降り続き、活動は中止。植物にとってはよい雨だが、やりたいことがいっぱい会員にとっては嫌な雨となった。

雨中の中、川井・萱野両氏が茄子の撤去作業、富井・八木・安川・塩本の各氏が、自然工作用の竹を準備していただいた。(文責：木村 裕)

里山の今

自然観察レポ

ならやま花だより

山中笙子

◆10/11(木)

シバ栗拾い、色づく柿、そして稲刈りへと収穫が続く季節です。二年振りにミズオオバコがハス鉢の中に咲きました。儂げで昼には散っていました。



5地区へ歩くと又違った花に出会えます。草むらに、カナムグラ(クワ科)が他の草に絡みつき咲

いていました。雌雄異株で雄花は薄黄色、雌花序は紫褐色の模様があり面白い形でぶら下がっています。「花序」とは花の付き方、集まりの事です。

【草花】 ホシアサガオ、カナムグラ、ヤブマメ、ヒヨドリバナ、ツリガネニンジン、ヤブタバコ、アオミズ、アキノタムラソウ、イヌコウジュ、アキノノゲシ、ススキ、イヌホウズキ、キンエノコロ、

(実) スズメウリ、ヘクソカズラ、ヤブガラシ

【ビオトープ付近】 ミズオオバコ、ミゾソバ、アキノウナギツカミ、オオイヌタデ、ヌカキビ、ポントクタデ、チョウジタデ

【木の花】 ヤマハギ、ナワシログミ、クコ

【木の実】 タラノキ、コナラ、クヌギ、ヒサカキ、アケビ、アオツヅラフジ、トウネズミモチ ヤマハゼ、

【花壇】 ヒメツルソバ、ゲンノショウコ、ノコンギク、フジバカマ、タマスダレ、ミズヒキ

ペタキン日記 ①

羽尻 嵩

◆8月20日(月)

ザニガニをとるために入れたモンドリにザニガリとともにペタキンの稚魚がたくさんかかるようになった。時にはドジョウやミナミヌマエビもかかる。

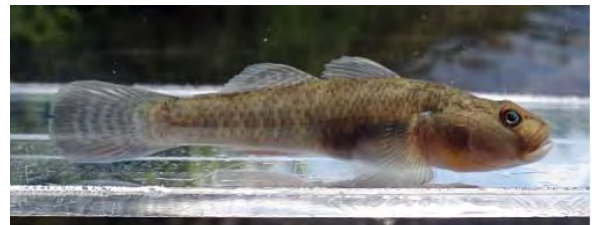
これら魚たちは親子も含め、棲み分けをしているようだ。池は2~3週間もたてば、底に10センチほど粘土質の泥が溜まるようになった。予想外だ。水の濁りが強く、この夏は透視度が10センチ以下の時もあった。ヒシャクで泥上げをし、タガイのいるプランターの中は砂をかき回してきれいにした。

◆9月20日(木)

暑さも少し和らいできたが、草刈りが待っていた。「ならやま池」、「タナゴ池」、「東池」と呼称変更した3つの池は、どれも土手周辺は夏草で覆われている。近大の北川先生が来訪された。タナゴ池の上段は広さ3.2m×4m・最深30cmで4列に湾曲している。下段は広さ3.2m×4m・最深40cmでいくつもブロックが置かれているが、この池でのペタキンの許容数は約100匹とのこと。

◆10月4日(木)

曇時々小雨。タナゴ池にシマヒレヨシノボリ8匹を放流。生物の保存育成は、できるだけ水系の生物を使うことにするため、タガイもこのヨシノボリも近大の学生が木津川で採ってきたものだ。タガイは冬場に孵った稚魚をヨシノボリのエラに付着させ、ヨシノボリの移動によって子孫を増やすのだ。ヨシノボリ自身は春に産卵する。いよいよ育成の第2段階に入った。



＜シマヒレヨシノボリ＞



＜ペタキン＞

里山の今

ならやまトピックス

菊川 年明

***ジャコウアゲハ* 更にその後**

9月の中旬、羽化していない蛹を点検したらほとんどが寄生蜂にやられていて、彼等が抜け出た穴が開いていた。5ミリくらいの穴だった。寄生蜂の親はジャコウアゲハの終齢幼虫のからだに卵を産みつけ、チョウの幼虫が蛹になってからハチの幼虫は其中で成長し、ハチになって宿主の蛹の殻から抜け出すようである。

寄生蜂はウマノスズクサの毒を蓄えているジャコウアゲハの幼虫の体内で育つのであるから、きっと毒の耐性を持っているに違いない。ちなみに、チョウの幼虫は一般的に8割方は寄生蜂の犠牲になっているということである。

9月になってから孵化したジャコウアゲハの幼虫は1月足らずのうちに終齢近くの大ささになった。数も相当たくさんであった。そのまま放置すると、またウマノスズクサの茎が根元から食いちぎるかもしれないと思い9月27日の活動日にその半数ほどを自宅に持ち帰り、金魚鉢大の飼育容器に入れて飼養を始めた。勘定してみると19匹いた。飼育容器の中の幼虫は過密状態であった。

餌のウマノスズクサは近くの佐保川に小群落があるので安心していたのであるが、さてウマノスズクサを採取に行ったところ、どの蔓にもジャコウアゲハの幼虫が付いていて、その採取は思いのほか難儀な仕事であった。

それでも必要量は充足していると思っていたのであるが、やはり餌不足であったのか、幼虫は共食いをしたようで、形を止めない残骸らしいものが容器の中で見つかった。

10月4日のならやま活動日に残っている幼虫の動静を見に行っところ、またまたウマノスズクサは全滅していた。全部地上数センチのところまで食いちぎられていた。周辺に生えていた実生らしい小さなものまで総なめにやられていた。まさに案じたとおりであった。それでもおおかたの幼虫は蛹化したようであったが、数匹の残っている幼虫は僅かに残る茎にしがみついていた。

我が家の幼虫は10月3日から蛹化が始まり、6日には全て蛹化した。しかし、蛹の数を調べてみると18匹であった。幼虫は当初19匹いたので、1匹は共食いの犠牲になったものと思われる。共食いのことは資料から知識としては持っていたが、これが本当であることを知った。チョウの幼虫の共食いはたいへん珍しいことである。それにどの蛹も幾分小振りのものである。やはり餌が少し不足していたのであろうか、正常なチョウが出てくるのか少し気がかりである。


▼ ジャコウアゲハの幼虫



ジャコウアゲハの

終齢幼虫に告ぐ

自分は
ウマノスズクサを
いっぱい食べて
もう要らなくなった
からといって、後に残る仲間達の
食草を全部かじり切るのは止
めなさい！！
ジャコウアゲハは少なくなってい
ます。**仲間を大切に！**



《西谷範子さんの労作です！》

やさしい昆虫講座 ②⑤ 木村 裕



池の中も百花繚乱、賑やかです

9月27日の活動日にビオトープ池のアオミドロを掬い取っていたメンバーが変わった虫を見つけ、近辺にいた仲間たちとわいわいがやがやと検討した結果、どうもタガメの子供ではないかとなり、現物の虫を持ってこられました。茶色で硬い甲羅を備えていることからそのように思われるのは無理のないことでした。しかし残念ながらタガメではなくてコオイムシでした。



コオイムシは体長20 mm前後（タガメは50～60 mm）、茶色の硬い甲羅（前翅にあたります）があり、環境省の準絶滅危惧種です。このビオトープ池で見つかったのは昨年度に続き今回で2回目です。メスがオスの背中に卵を数十個かためて産みつけ、孵化するまでオスが守る習性があります。2回とも成虫のみで繁殖はまだ認めておりません。たぶん空を飛んでいて、山の合間にある小さな池を見つけ、水浴びと何かうまい物はないかと期待して訪れてきたものと思います。

タガメは、昔はため池に普通にいたのですが、現在は絶滅危惧種となっており、その姿はめったにお目にかかれません。しかしタイでは普通に捕れ、すり潰して調味料として利用されています。

コオイムシもタガメもカメムシ類の仲間、口は針状の長い管になっています。また、前足はカマキリの足のように生き物を捕獲する仕組みになっており、オタマジャクシや小型の昆虫

を捕らえて生き血（体液）をすすりっています。

この仲間は成虫と幼虫とでは大きさは違っても姿・形・色は良く似ています。幼虫では背面に将来の羽の元があり、成長につれて少しずつ大きくなりますが、十分に大きくなって成虫になる一歩手前でも、背中の後ろ半分にはまだ羽はなく胴体が見えています。最後の脱皮をすると羽の部分が出来上がり、甲羅のようになります（蛹の時代はない）。

このように生き血を吸う口ばしを持った大型の虫にはミズカマキリがいます。ちょっと目には名前のおりカマキリに良く似ており、スマートな長い手足（どれが手で、どれが足かはまだ伺っていません）があるのが特徴です。昨年度は2回ばかり訪問がありました。今年はまだ一度もお見えになっておりません。何かうまい物の提供が必要かも！

小型の虫はミズムシ類などがいろいろ見つかっております。生態で変わったものはマツモムシで長いオールのような足をもっていて、いつも逆さまになって泳いでいます。



ビオトープ池の生き物については、景観グループの池担当メンバーが中心となって月2回のペースで継続的に調査を行っており、面白いデータが集まっています。1年間のデータがまとまった時点で報告があるものと思いますのでご期待ください。



鳥シリーズ 小田久美子

ゴシキヒワ

神戸市立博物館で「マウリッツハイス美術館展」が来年1/6迄開催され、レンブラント作品などと共にフェルメールの「真珠の耳飾りの少女」が再来日しています。12年前は「青いターバンの少女」として人々を魅了しました。

そんな人気作品の中に「ごしきひわ」というタイトルの小品がありました。キリスト受難の象徴とされるアザミの実を食べるので、キリスト教圏ではイエスの逸話の中で良く描かれる鳥です。ヨーロッパ・アフリカ・中央アジアに広く分布し、声も美しいので飼鳥としてポピュラーな鳥のようです。

日本でも時折り迷鳥として記録されることがあるようですが、世界中で愛玩鳥として買われてきたので籠脱けしたものかもしれないと云われています。

ならやまでもお馴染みの「カワラヒワ」と同じアトリ科の仲間で、カワラヒワより少し小さい鳥です。私は「カワラヒワ」の方が囀りも姿もずっと美しいと思います。

「カワラヒワ」は東アジアに分布するので、英名に東洋の緑色のアトリ「オリエンタル・グリーンフィンチ」と名付けられています。河原でよく見るヒワの仲間なので「カワラヒワ」です。囀りも姿も美しい鳥ですが、当たり前には沢山見られる為になかなかスターになれない鳥です。



ゴシキヒワ(「ウィキペディア」より)

(編集者から鳥シリーズの継続依頼を受けました。「鳥」をキーワードにお話を綴っていきたいと思います)

地域情報 11月号

キビタキ (斑鳩)

9月17日(1羽) 22日(3羽) 三室山にエゾビタキ(旅鳥)がいました。毎年滞在してくれます。

23日コガモ・ヒドリガモ初認エクリップス状態なのかメスなのかはつきりしません。

10月1日ヤマガラが電線に止まっていた。みんな同じだと思って帰ってから写真を見ると、キビタキが1羽混じていました。のど(オレンジ)胸、腰の黄色が鮮やかな鳥です。夏鳥なので、中国南部に帰って行く途中の様です。来てくれたのはうれしかった!! (勝田 記)



野鳥の会情報

奈良公園「コサメビタキの群れ」。矢田山「ムビマキの群れ」南下する「キビタキ・オオルリ」が見られています。



コサメビタキ▲

美味旬感

ノビル

蒜（ひる）はニンニクなどの古名で、野生の蒜ということで野蒜。食用より民間薬として古来より知られている。

はれもの、できもの、虫さされに鱗茎をすりつぶして汁を塗ったり、小麦粉と練りあわせて貼ったりする。全草を乾燥させて煎じて飲むと、血を補い、よく眠れる。

食用は細い葉を食べるが、特に球根（鱗茎）が採れた時には生のまま味噌をつけて食べると酒の肴によい。玉葱に似た香りと辛味がある。

土手や野に生えるが、土が軟らかい所でないとなかなか下の球根が抜けない。

葉は春の若い時もよいが、寒くなると結構やわらかい。きざんで味噌汁や雑炊に入れたり、炒め物やかき揚げなどおいしい。

野草料理陰の主役
紹介します!!!

西谷 範子

茹でて酢味噌和えにするのが定番だが、球根も茹でると辛味は無くなり、ほんのり甘味さもある。私は野蒜をどっさり入れた餃子を作ってみたが好評であった。

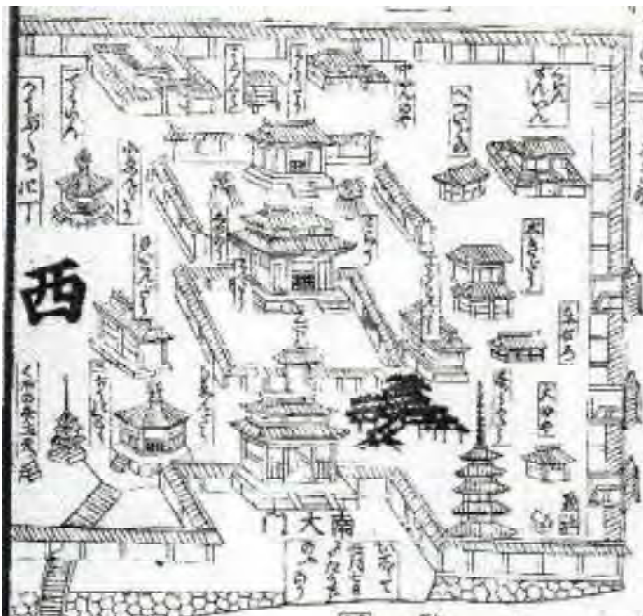
球根を引き抜いて大きなものだけ採り、小さなものは又植えなおしておこう。来年も採れます。

先日沢山生えているノビルを採ってもいいかと聞かれ、いぶかりながら見に行くと水仙の芽吹きであった。有毒の彼岸花の芽吹きもよく似ているので気をつけるべきである。



奈良学クイズ

この絵図は、弘化2年作成の「ならめいしよゑず」の一部です。このような伽藍配置であった寺院名をお答えください。



- ◆全問正解の方(1名)に、赤米を進呈します。(正解者多数の場合は厳正な抽選により決定)
- ◆当選者された方には、ならやまで進呈するか、遠隔地の方には宅急便でお送りします。
- ◆応募方法は、メール(編集チーム・鈴木宛)でお願いします。

※ 応募締切は、11月5日(消印有効)

コンバインの殺陣師のやうに稲の株

鈴木末一

殺陣師が乗り移った様なコンバインの機動力。
今年も豊作。農事の疲れも吹っ飛ぶ。

群れ蝗少年の日を思ひたり

鈴木末一

農葉によりいなごはめっきり減少。戦中戦後には
よく食したものだ。そんな追憶の一句。

切り通し越へて案山子のご挨拶

八木順一

九月例会。飛鳥路は案山子のコンテストで賑わう。
朝風峠を越えれば稲田が広がる。この時季ならではの一景。

幽玄に翁面舞ふ秋の暮

八木順一

歴・文クラブ スペシャル企画。豆比古神社の祭礼。
篝火に泛く。翁・千歳・三番叟の舞。伝統行事の奥深さ。



自然俳句

監修 川井秀夫

秋祭村の古老が翁舞ふ

川崎和江

村の長老たちの晴れ舞台。
味のある所作に秋の夜長を楽しむ。

三熊野のカンナの真昼瀨の青

川井秀夫

一泊旅行下見。熊野路は曼珠沙華とカンナの花が印象的。
カンナくん本番まで咲いているかい、いや、あカンナ とき。

虫の宿草の窪には子守歌

川井秀夫

虫の集く季節がやって来た。
夜の里山にはどんな声が聞けるかな。

秋袷袂ゆたかに翁舞

川井秀夫

錦糸の衣装が伝統美を醸す。重文の翁面芳し。
眼福のひと夜を堪能する。

Gallery ならやま



【マリのいた日々】 小田進八郎

この8月、17年半一緒に暮らした愛犬との別れがありました。記憶の新しいうちにと、思って描きました。



【柿】 有元康人 柿の葉の紅葉が美しく画きたかった。



【護摩堂】(法華寺) 鈴木未一

今年夏「ふれあい写生大会」を開催した。町内の小学生16名が参加してくれました。主催者の一員として、約半世紀振りに絵筆を持ちました。忙中閑あり?.....

《12月例会予告》

当尾の里(岩船寺・浄瑠璃寺)を訪ね忘年会へ

12月例会は、「当尾の里」を訪ねて、その後忘年会を行います。「当尾の里」では、名利浄瑠璃寺(特別名勝史跡の庭園、九体阿弥陀仏、三重塔)、岩船寺(阿弥陀如来坐像、庭園)を訪ね、あちらこちらにある多くの石仏を愛で、穏やかな初冬の景色を楽しみながら散策します。忘年会は、JR奈良駅前です。どちらか一方のみの参加も大歓迎です。



1, 「当尾の里(岩船寺・浄瑠璃寺)を訪ねる」

日時: 12月11日(火) 9時40分~16時

コース: JR加茂駅→バス→岩船寺→不動明王立像→浄瑠璃寺→長尾の阿弥陀如来→浄瑠璃寺前→バス→JR奈良駅

集合: JR加茂駅改札口 9時40分

担当者: 富井忠雄
八木順一

2, 「忘年会」この1年を振り返りながら、会員相互の懇親を図ります。

日時: 12月11日(火)
16時10分~18時

場所: JR奈良駅前「わん」
奈良市大宮町 梢ビル2・3F
0742-20-3666

会費: 男性 4500円(予定)
女性 3500円(予定)

担当者 寺田 孝





秋のノスタルジアに恋して



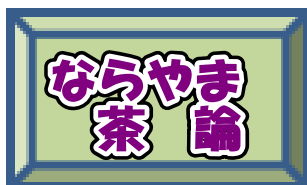
谷川萬太郎

いつの日かあなたと語る夢さえ奪われ
あなたからの便りも気がつけば秋風に
あなたの心の窓辺に咲く花の愛しさに
秋の日の陽だまりにあなたの影を踏み
私の唇にはさよならの言葉はいらない

やがて遠ざかる秋はジェラシー
ちぎれ雲のように寂しく消える
気品漂う水葵恥ずかしげに微笑む
面影抱いて飛び交う赤とんぼよ
切ないこの想い抱くのが怖いから

コスモスの花びらが秋風に揺れる
故郷の懐かしき匂いが胸をはずませて
真っ赤に染められたサルビアの花が
案山子の峠を越え涼風坂を後にして
白色の彼岸花が人恋しくて遠慮深く
心届かぬままに早乙女の裳裾濡らし

虹色の秋を探し静かな山里に辿り着く
遠くの山裾から私達に話しかけてくる
私を見つけて喜びの笑顔を振りまく
懐深き山野辺に旅人を誘う花の宴
恥ずかしそうに優しくほほえみかける
いつの世も美しきかな秋雨の恋花よ



「里山の妙好人」

竹本 雅昭

人々：これは素晴らしい!! 草の綿帽子
(冠毛) が白い竜巻となって舞い上が
って…。シャラシャラと音が聞こえ
てきそう。ふわーとどこまで、実
に楽しそう。

ダンド：風さんありがとう。私もやっと子育て
ボロギク から解放されるわ。因幡の源左さ
んじゃないけど"ようこそようこそ"

ジョロウ：ちょっと雑草さん困りますよ、網に
グモ 一杯ひっかかって掃除が大変なんだ
から。

ボロギク：すいません、どうしても風さんに頼
らなければならぬものですから。

クモ：もう少し人の迷惑も考えてください
よ。

ボロギク：あら、そんな事言ってもいいんですか。
クモさんも玉子からかえった頃は風
に乗って散らばり、網を張るのに草
木に助けてもらってるじゃありませ
んか。

クモ：ムムム…。ギリギリ…。
風：まあまあお二人さん、みんな悪いの
は私のまずさが原因、かんにんして
やって下さい。

クモ：私もすぐカッとなってごめん。多く
の昆虫のお命を頂き、又草木さん
のお力を借りながら"ようこそようこそ"
を忘れてました。



かくれ古社寺 ひとり旅③

歴史文化クラブ
川井秀夫

～野上・石荒・金龍神社～

この日、秋晴れの好天。春日大社の社域を漫ろ歩いてみた。摂社・末社が40数社あると言う。水谷神社・紀伊神社・聖明神社・浮雲神社・愛宕神社・一言神社など大手企業が奉獻した小社などを含むと並び建つ社殿の数に驚きである。十五社まいりと言うのもあるらしい。春日信仰の時代の隆盛が偲ばれる。

数年前、若草山の山焼きを最前列で見た事があり、その時の神事が脳裏から離れず、野上・石荒(いしこう)神社を昼間見てみたいと思っていたが・・・。

この神は若草山の南登山道の入り口近くに鎮座する。野上社は朱塗りの社殿があるが、石荒社は隣接して二つに割れた石があり、神の座として盤座信仰の象徴として威厳を保つ。(奈良町絵図には昔、社殿があったらしい)

山焼き当日は点火の前の祭典の舞台になる事で知られる。

この祭事の流れは、東大寺と興福寺・春日大社の領地争いが発端と言われるが、農民がカヤや柴木を採るために燃やしたとの説もある。どちらにしても、弱者の背景には寺領争いが絡んでいたことは間違いないようだ。

東大寺の寺域を定めた「山堺四至図」では今の若草山は東大寺領だったと記す。鎌倉期に入り、春日大社と一体化した興福寺の僧兵が支配を強め、東大寺と対立したと言う。

同神社の側に地蔵を線刻した「地蔵岩」があり、南無春日大明神と刻す。

いつの世も覇権争いは絶えない。北方領土・尖閣列島・竹島しかり、人間の悪業が消えぬ限り、歴史に学ぶ惨憺な政治家の出現は無理なのかも知れない。



▼金龍神社



▲石荒神社(左)
野上神社(右)

水谷茶屋の緋毛氈の床几で一服。珍しく冷やしぜんざいを所望、疲れを癒やす。外人客が盛んにシャッターを切る。私も被写体になったかも。

春日大社を素通りして上の禰宜道から脇に逸れ「金龍神社」を訪う。道中色々な社殿を見て「諸願成就」「金運・財運の守り神」とけばけばしい赤で大書した幟が犇めく様に並ぶ。緑に慣れた目が痛いほど。

積まれた絵馬には「宝くじにあたりますように」「貧乏です。お金持ちになりますように」「仕事がみつかりますように」とか不景気の昨今、絵馬に託したくなる気持ちは誰も同じだ。

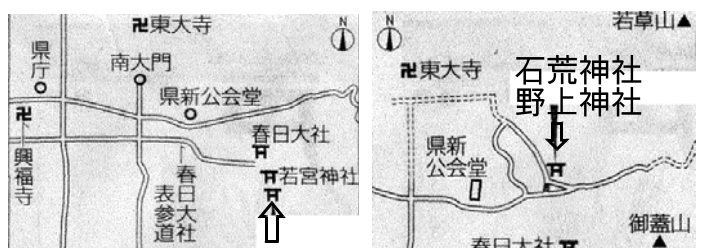
後醍醐天皇ゆかりの神社と言う。鎌倉幕府滅亡につながる元弘の変で倒幕計画を察知された天皇は笠置に逃れ、春日大社にひそかに行幸し、神鏡を奉納する。この鏡は僧兵に知られないように、代々神職の家に保管され、後に金龍殿を建てて鏡を祀ったと言われる。

鏡は唐の禽獣葡萄鏡で重文に指定されているが、奉納にかかわる史料は見当たらないと言う。笠置に逃れたのは有名な史実だが、伝承となれば、これもまた中世のロマンとして面白い。

金運の神様も金龍殿の金の連想であろうか。

釣瓶落としの秋の日も西に傾き始め、家路を急ぐ。

今宵は金箔入りの熱燗でも飲むとするか。



金龍神社

ならやま景観整備 & 情報BOX



◆ 活動予定日 ◆

11	1日(木)	8日(木)	15日(木)
月	22日(木)	29日(木)	
12	6日(木)	13日(木)	20日(木)
月	27日(木)		

◆場所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路(ならやま大通り)の南側に広がる里山林地]

◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆終了予定：午後3時



『新蕎麦祭り』開催！

今年も「ならやまF」でとれた「新蕎麦」を皆さんに賞味していただく「新蕎麦祭り」を開催いたします。今年も、台風の余波や数回の激しい夕立などの影響で作柄が今一つでしたが、収穫の季節を迎えました。当日午前中に「蕎麦クラブ」の会員が打ち、すぐに茹でた新蕎麦を食べていただきます。「採れたて」「打ち立て」「茹でたて」の新蕎麦は、今までの蕎麦の味が一変すること請け合いです。



ぜひ「ならやまF」で「ならやま新蕎麦」をご賞味ください。ふだん「ならやまF」に来られない方も大歓迎です。見学がてらお越しください。

- ・日 時； 11月29日(木) 12時～
- ・場 所； 「ならやまF」
- ・会 費； 300円

(お椀、お箸をご持参ください。
なお今年はお酒はありません。)



お問合せ先 蕎麦クラブ 事務局 寺田 孝

◆アクセス：

- ① JR平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
 - ② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場
8：23発、高の原行き(平日)
 - ③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場
8：33発JR奈良駅行き(平日)
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」
で下車 徒歩7分

◆携行品など：弁当、飲み物、
軍手、(作業用具は現地で用意)



◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。



◆連絡先：木村 裕



ならやま名物 「芋煮会」のお知らせ 12/13

今年も里芋が順調に育っています。夏の日照り対策として、干ばつに備えて水路からパイプで水を導き、丹精込めた世話をしてもらった。その甲斐があって、風味豊かな美味しい里芋を味わうことができると大いに期待しています。

山形県真室川地区の室町時代から「一子相伝」と言われています「甚五右エ門芋」を昨年入手し、ムロで保存、今春植え付けました。この里芋が今年の主役です。



すーっと箸がとおりとおり、そして

とろりいんと透明な粘質の液体がネチッと伸びる。里芋のヌメリ物質は、ガラクトンとムチンだというのが、甚五右エ門芋はその含量が非常に高いという。たしか通常品種の二倍とか。またもう一つの特徴は純白さ。それも甚五右エ門芋の特質だという。芋の形状は片方が太った楕円形というのを最上とするそう。そして、地上部に近いところは日光が当たるのか、少し青みがかかった状態で収穫される。ジャガイモなら緑化した部分は毒素が生じるので生食用には適さないが、甚五右エ門芋の場合は「青くなると特に柔らかくなる」そうです！

行事案内



楽しい自然観察会のご案内

担当 自然教室チーム



紅葉の進む秋の一日、講師の先生と自然観察に出かけませんか。

講師は、「大和郡山の子どもと自然を愛する会」の、野遊びサポーターでいらっしゃる御宮地伸彦さんにお願ひしました。昨年の春に実施した際、「自然観察の仕方」や、「楽しい自然遊び」をたくさん教えていただき、参加者に大変好評でした。

自然に関心のある方なら、どなたでも楽しんでいただけます。

自然教室チームのスタッフはもちろん、多くの方にご参加いただきたくご案内いたします。

●日時：11月20日(火) 10時～14時

●場所：矢田丘陵周辺の里山

●集合場所と集合時刻

大和郡山市少年自然の家前駐車場10時

●持参するもの

ルーペ・メモ・筆記用具等の観察用具
あればポケット図鑑・弁当・お茶等

●アクセス

車の方 駐車場有り
バスの方



唇に当てて吹く

※近鉄郡山駅東口から5分程のバス乗り場

1 番乗り場矢田寺・JR小泉駅方面乗り場

9時05分発JR小泉駅方面行き乗車

「矢田東山停留所」下車 徒歩15分

※JR大和小泉駅東口

1 番乗り場 近鉄郡山駅行き

9時00分又は9時15分発

「矢田東山停留所」下車 徒歩15分

●準備の都合上 参加希望者は、

11月10日までにご連絡ください。

連絡先 平岡久美

多くの皆さんの参加をお待ちしています。

《歴史・文化クラブ 11月研修会のご案内》 蘇我氏の興亡の跡を訪ねて明日香路を歩く

欽明天皇から皇極天皇までの約100年間は、都は飛鳥に置かれ、飛鳥時代と言われます。古代の朝廷や政治の仕組みができ、隋や唐へ使節を派遣して文物を取り入れ、国内制度を整備しました。この時代は天皇の外戚の蘇我氏が政治の中心となって腕を奮った蘇我時代でもあったのです。

蘇我時代は血で血を洗う戦いが続きます。蘇我氏と物部氏の宗教戦争では大王家の諸皇子も双方に分かれて激しく争いました。その後の政争でも馬子は崇峻天皇を殺します。このような中に摂政となった聖徳太子は、十七条の憲法に「和を以て貴しと為し・・・」と説きましたが、太子亡き後、子の山背大兄皇子は蘇我入鹿に滅ぼされます。しかし、専横を極めた蘇我氏も中大兄皇子のクーデターで入鹿が誅殺され滅亡します。一方では、蘇我氏専横説は日本書紀の創作であるとする説や、入鹿は国際感覚に優れたエリートであったという説などもあり、興味は尽きません。

今回はその興亡の歴史と伝説を訪ねて、晩秋の明日香路を歩きます。また、万葉の歌碑も多いので万葉集の好きな方には特にお勧めです。同好の皆様のご参加をお待ちいたします。

◆日時：11月27日(火)

◆集合：午前10時 橿原神宮前駅東口

◆コース：(バス) 甘樫の丘 ⇒ 入鹿首塚 ⇒ 飛鳥寺 ⇒ 飛鳥坐神社 ⇒ (昼食) ⇒ 万葉文化館 ⇒ 嶋の宮跡 ⇒ 石舞台古墳 ⇒ (バス) 飛鳥駅

◆解散：午後4時ごろ

(担当世話人 杉本 登)



